

所属学部：国際文化学部

学籍番号：18G1218

氏名：武村響

指導教員：鈴木靖

2021 年度法政大学国際文化学部卒業論文

朝鮮の歴史と韓国人の心性からみる
キリスト教受容の歴史

目次

第一章 序論.....	2
第二章 儒教とキリスト教の起源.....	4
第一節 儒教の歴史.....	4
第二節 朝鮮におけるキリスト教の起源.....	5
第三章 キリスト教の受容.....	8
第一節 朝鮮キリスト教の初期.....	8
第二節 プロテスタントの広がり.....	10
第三節 キリスト教の土着化.....	13
第四章 キリスト教の成長と民族運動.....	14
第一節 併合から解放までのキリスト教.....	14
第二節 解放後の南北分断から韓国の民主化運動.....	17
第三節 社会変動によるキリスト教信者の増加.....	20
第五章 キリスト教受容基盤となった伝統信仰.....	22
第一節 シャーマニズム(巫教)とキリスト教.....	22
第二節 儒教とキリスト教.....	23
第六章 韓国キリスト教会の問題点.....	26
第一節 韓国キリスト教の現状.....	26
第二節 社会的信頼を失った韓国プロテスタントの課題.....	27
参考文献.....	31

第一章 序論

大韓民国すなわち韓国は儒教の国である、というイメージは世界に定着しているだろう。2019年に日本でも話題になった小説『82年生まれ、キム・ジヨン』(チョ・ナムジュ著、斎藤真理子訳、2018)では、一家の男子、特に長男をひいきして育てるといふ韓国の家父長制の実情が浮き彫りになった。また、BTSを筆頭に近年ブームになっているKPOPアイドルグループにおいても、1歳でも年上であるメンバーには(年下男子が年上男子に向けて)「ヒョン」(年下女子が年上女子に)、「オンニ」といった敬称をつけ、敬語で話している。その反対に、年齢序列が逆転し、年下が年上にタメ口を使い呼び捨てをしても良い「ヤジャタイム」¹というゲームも存在する。仲の良い間柄であっても、年上には敬語を使うことが好ましいとされている文化が垣間見える。

このような韓国における家父長制や年長者への敬いといった文化的特徴は、1392年から約500年間続いた朝鮮王朝の国教とされた儒教の考え方が慣習となり残った結果といえる。

その一方で、韓国は「戦後、世界で最もキリスト教化が進んだ国」²と表現される。事実、2015年時点で、プロテスタントとカトリックを合計すると国民の27.6%がキリスト教信者だという調査結果がでてい³。これは、前々回調査(1995)年と前回調査(2005年)で1位であった仏教を、キリスト教が初めて抜いた形だ。それと同時に、韓国におけるキリスト教は、様々な形で存在感を増している。

例えば、新型コロナウイルス感染拡大初期であった2020年2月には、新興宗教団体「新天地イエス教会」での大規模な集団感染が発生し、5000人超に及ぶ感染の広がりとそのカルト的教えから、韓国はもちろん、日本のメディアでも大きく取り上げられた。「新天地イエス教会」の教祖、李万熙(イ・マンヒ)総会長は、同年8月、感染症予防法違反、さらには教会資金の横領の疑いなどで逮捕されている⁴。

また、韓国ソウル特別市汝矣島^{ヨイド}には世界最大のプロテスタント教会としてギネスブックに登録されている教会がある。汝矣島純福音教会は、1993年当時70万人の在籍

¹ 日本語でいうと無礼講タイム

² 崔吉城『キリスト教とシャーマニズムーなぜ韓国にはクリスチャンが多いのか』(ちくま新書1598、筑摩書房、2021年)p.15

³ 韓国統計庁「2015 인구주택총조사(2015人口住宅総調査)」
https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1PM1502&conn_path=I2

⁴ 「韓国、集団感染した宗教団体の教祖を逮捕 防疫を妨害か」(朝日新聞デジタル2020年8月1日 <https://www.asahi.com/articles/ASN8145RSN81UHBI00G.html> 最終閲覧日2021年12月28日)

教会信者がおり、単一教会に所属する信者数で世界最多となりギネスブックに登録された。信者が最も多い時期は78万人に達した⁵。設立者の趙鏞基(チョ・ヨンギ)は、国内はもちろん、アジア・アフリカ・南アメリカのいわゆる第三世界への宣教に力を注ぎ、その集会では100万人以上を動員することもあった。そのカリスマ性で国内外に影響を及ぼす反面、2013年には脱税容疑、株売買での背任容疑で起訴されており⁶、巨大な韓国教会の闇が露わになった。

私たちが一番身近に感じることのできる韓国芸能界にもキリスト教信者が多数いる。カトリック信者には、「冬のソナタ」主演のペ・ヨンジュン、RAIN(ピ)とキム・テヒ夫妻、フィギュアスケートのキム・ヨナなどがいる。プロテスタント信者では、チェ・ジウ、2021年11月に結婚を発表したパク・シネとチェ・テジュン夫妻、アイドルグループ少女時代のメンバー8人の中の7人⁷、信仰熱心で知られるSUPER JUNIORのシウォンなどがプロテスタント信者である。このうち、少女時代メンバーのティファニー、ヒョヨン、ユナ、スヨン、SUPER JUNIORのシウォンに2NE1のミンジや俳優のキム・スヒョン(現在は無宗教)らを加えたキリスト教信者の集まり「ムンミエン」⁸は、2010年に集会の写真を公開し、礼拝活動のほか多様な奉仕活動に参加していると伝えられた。

このように儒教文化が根強く残る韓国において、キリスト教は国民の3割弱が信仰する第一宗教となり、時には大きな社会問題を引き起こす巨大組織を形成している。

では、儒教国といわれる韓国でどのようにしてここまでキリスト教が広まり信者を増やしてきたのだろうか。また、儒教を思想的基盤とする韓国社会と、戦後急成長を遂げるキリスト教の間で衝突は生じているのだろうか。朝鮮・韓国におけるキリスト教受容の歴史をたどり、韓国の伝統宗教とキリスト教との関係を考えながら、朝鮮と韓国のキリスト教の隆盛について論じていきたい。

⁵ 「[삶과 추억] 세계 최대 단일교회 여의도순복음 창립자 조용기 목사 소천([人生・追憶]世界最大の単一教会 汝矣島純福音教会創立者趙鏞基牧師死去)」(中央日報 2021年9月15日 <https://n.news.naver.com/article/025/0003135143> 最終閲覧日 2021年12月28日)

⁶ 「조용기 목사 집유…재판부 “사회복지 기여 참작”(趙鏞基牧師執行猶予…裁判部“社会福祉貢献度酌量”)」(ハンギョレ 2014年2月20日 <https://n.news.naver.com/article/028/0002221831> 最終閲覧日 2021年12月28日)

⁷ テヨンを除いたサニー、ティファニー、ヒョヨン、ユリ、スヨン、ユナ、ソヒョン

⁸ 문화・미디어・엔터테인먼트 종사 청년 기독교(文化・メディア・エンターテインメント従事青年キリスト教)の略称

第二章 儒教とキリスト教の起源

第一節 儒教の歴史

朝鮮には、4世紀から5世紀にかけて、中国から道教、仏教とともに儒教が伝来した。その後6世紀に導入された新羅の仏教は、676年に高句麗と百済を滅ぼし三国統一を果たしたことで三国の文化が融合し、7-8世紀に最盛期を迎える。この時期を代表するのが、仏国寺や石窟庵などの豊かな仏教芸術である。918年に始まる高麗朝では儒教を政治理念としたが、同時に仏教が国家の支援を受けて繁栄した仏教国であった。しかし、次第に政治と癒着するようになると墮落し、高麗朝とともに衰退する。

1392年に李成桂(イ・ソンゲ)が李氏朝鮮(李朝)を建国すると、仏教排除を進め、儒教の中でも朱子学(性理学)だけが正しい唯一の学問だと定めた。朝鮮儒教では、中国や日本で盛んであった陽明学はほとんど受け入れられなかった⁹。朝鮮王朝は朱子学(性理学)を支配理念とし、科挙制度の導入、君臣関係の強化を通じて国家制度と社会を整備するのに大きく貢献した。また、記録を残すことを重要視する儒教の影響から、朝鮮王朝の基本大典である『経国大典』をはじめとして様々な歴史書や地図が編纂された。聖帝と仰がれる世宗は、1446年に訓民正音(ハングル)を作り頒布した。

朱子学(性理学)は、朝鮮王朝における儒教の主流派で、緻密な体系をもつ壮大な思想である。理と気を2本の柱として理論体系を完成させたが、朝鮮朱子学では気よりも理が重要視された。このため、性理学とも呼ばれる。儒者の李退溪(イ・テゲ)、李栗谷(イ・ユルゴク)は16世紀後半に朱子学全盛期を築き、日本の学者にも影響を与えた。

ところが、1592年から壬申・丁酉倭乱で日本が南から侵略する。さらに、1627年と1636年には満州族が北から侵略してきたことで、朝鮮半島は焦土と化す。これらの外国の侵略にあたって無能をさらけ出した支配階級層の両班は、一層儒教的秩序の強化を図り、性理学の支配理念を正統化し、他の一切の理念を排斥した。また、身分秩序の維持と、家父長制に基づく閉鎖的な同族集団を利用して、権力の閥族化を図った。

一方で、このような伝統的な儒教理念に基づく政治体制の限界を見抜いていた土班¹⁰は、現実改革をもたらす新しい理念を求めた。

⁹ 浅見雅一、安廷苑『韓国とキリスト教 いかにして“国家的宗教”になりえたか』(中公新書 2173、中央公論新社、2012年)p.132

¹⁰ 両班の中でも、政権から疎外された在野のグループ

第二節 朝鮮におけるキリスト教の起源

第一節で述べたように、一部の両班たちは王朝の官学であった性理学に疑念を抱き、儒教にとって代わる新しい理念を求めていた。そんな彼らが注目したのは、西学であった。西学とは、西洋の科学技術に関する知識と西教(カトリック)のことである。彼らは、その実証的な科学精神に影響を受け、非現実的な朱子学(性理学)を批判し、科学的に現実を理解し変革しようとする「実学」を生み出した。

17世紀以降、マテオ・リッチ(Matteo Ricci、1552-1610)の『天主実義』など、イエズス会士が漢文で刊行した漢訳西学書が朝鮮にもたらされた。これらを読んだ実学者たちのカトリックに対する態度は2つに分かれた。1つは、西洋の科学精神は受け入れるが、キリスト教は邪教として排斥し、儒教を保持しようとしたグループである。もう1つは、西教を新しい宗教理念として受け入れようとしたグループだ。後者のグループは星湖学派のうちいわゆる信西派と呼ばれ、朝鮮初のカトリック信者となる李承薫(イ・スンフン)らが所属した。

信西派に属する人々は1770年頃から天主教(カトリック)に関する研究会を開いていたが文献資料の不足を痛感し、政府の使いに随行して北京を赴く李承薫に、北京の教会で資料を求めること、洗礼を受けることを勧めた。そして1784年2月、李は北京で洗礼を受け、最初のカトリック信者となり帰国した。さらに、信西派の同僚2人に洗礼を施し、彼らは朝鮮天主教会の最初の礎となった¹¹。

ここで特徴的なのは、朝鮮におけるキリスト教の受容が、宣教師による宣教に起因するのではなく、朝鮮人の自発的な選択による、という点である。日本におけるキリスト教の伝来は1549年イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエル(Francisco de Xavier、1506-1552)の布教であるのに対し、韓国では1784年李承薫の受洗で信者になったことをキリスト教の起源としている。バチカンも、韓国のキリスト教が18世紀後半の韓国人による自主的摂取に始まるとみなし、そのような起源をもつ韓国教会が、キリスト教史で唯一の特異な存在であるとしている¹²。

一方で、キリスト教の朝鮮伝来は、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に日本からイエズス会宣教師が渡ったことであるという説もある。しかし、この解釈は韓国では歓迎されていない。その理由は後に述べる。

¹¹ 柳東植『韓国のキリスト教』(東洋叢書5、東京大学出版会、1987年) pp.25-26

¹² 同注11 p.45

文禄の役(韓国では壬申倭乱)中の 1593 年、スペイン人イエズス会士グレゴリオ・デ・セスペデス(Gregorio de Céspedes、1551 年-1611 年)が日本のキリシタン大名小西行長の従軍司祭として朝鮮に渡った。1578 年にポルトガル人が漂着した事例を除くと、セスペデスは初めて朝鮮半島に上陸したヨーロッパ人である¹³。この事実は韓国でも知られていたが、あくまでもキリスト教と接触した最初の事例であり、伝播には至っていないという見解であった。

そのため、壬申倭乱が韓国教会の起源であるとする研究者ホアン・ルイズデメディナ(Juan G Ruiz de Medina、1927-2000)が表れると、韓国の歴史研究者たちは強い拒否反応を示した。スペイン人イエズス会士であるルイズデメディナは、1986 年にイエズス会の朝鮮開教に関する研究書のスペイン語版を出版した。その日本語版『遙かなる高麗』の中で、イエズス会が文禄・慶長の役の際に朝鮮半島から日本へ連行された捕虜を世話する一方で、彼らにキリスト教の信仰を伝えたと記している。その結果多くの朝鮮出身者がキリシタンとなり、1610 年には長崎に聖ロレンソ教会という最初の朝鮮人教会が建てられたとしている。また、1620 年代には日本で改宗した朝鮮人が故国に帰った事例があると推定している。ルイズデメディナは文禄の役中の 1592、1593 年頃が韓国教会の「誕生」と説明する。

この研究に対し、韓国では大きな批判や非難が巻き起こった。韓国側の史料からは確認できない史実の存在が問題視されると共に、現在韓国の主要な宗教となっているキリスト教が日本の朝鮮侵略に乗じて伝播したとみなされたことに強い抵抗感が示された。

ルイズデメディナの見解を精緻に検討し批判したのは、ソウル大学名誉教授の李元淳である。李は、セスペデスが日本へ連行された朝鮮人の受洗に関係したことや、日本でキリスト教信者となった朝鮮人が多数いることは韓国でもよく知られた事実だとしながら、その歴史は韓国教会史ではなく、日本キリシタン史の範疇であるとした。李は、ルイズデメディナの研究では、キリスト教が朝鮮半島に還元されているかという点で信憑性に欠けるために、韓国キリスト教の起源が朝鮮侵略の際であるとするには不十分だと主張した¹⁴。

ルイズデメディナの研究が韓国内で批判を浴びたのは、キリスト教の起源が屈辱的歴史である秀吉の朝鮮侵略であるとしたことを、韓国人が心理的、感情的に受け入れられなかったことが大きいと思われる。

現在の韓国教会は、1784 年の李承薫の受洗をもって韓国キリスト教の起源としており、1984 年には韓国教会 200 周年記念大会が開かれ、当時のローマ教皇も訪韓し出席

¹³ 同注 11 p.46

¹⁴ 同注 11 pp.57-60

した。このように、1784年は韓国キリスト教にとって記念すべき重要な年であり、この先も揺るがないだろう。

第三章 キリスト教の受容

第一節 朝鮮キリスト教の初期

1784年に李承薫が最初の洗礼を受けてから、多くの儒者がキリスト教に入信するようになった。政権から疎外された両班層は、現実改革という強い社会的関心を持ち、近代を志向する実学研究を行った。このような新しい思想運動の中で、一部の実学者はカトリック信者となったのである。当初、両班階級を中心に信仰されたキリスト教は、次第に民衆へも広がっていく。儒教体制の下、厳格な身分秩序で社会的に抑圧されていた一般の民衆にとって、神の下での平等を説くキリスト教の教えが大きな救いとなり、人々を惹きつけた¹⁵。

こうしてカトリックは速やかに広まっていき、李承薫の帰国15年後の1800年頃には既に数千人に達する信者が存在した¹⁶。

しかし、18世紀末以降、朝鮮王朝は断続的にキリスト教を迫害し続ける。朝鮮カトリック史の初期100年は、迫害と殉教の歴史、実に受難の100年となるのだ。以下は、受難の100年間の主な教難を表した年表である。

西暦	出来事	内容
1785	朝鮮初の殉教者 ¹⁷	自宅の日曜礼拝を行っていた <small>キムボム</small> 金範禹が流刑の後死亡
1791	辛亥の教難 (朝廷による初の迫害)	<small>ユンジチュン クォンサンヨン</small> 天主教徒尹持忠と権尚然が祖先祭祀を廃し処刑 ¹⁸
1801	辛酉の教難	李承薫ら信西派処刑 約300名が殉教
1839	己亥の教難	儒教政権がカトリック撲滅へ 約113名の殉教者
1846	丙午の教難	<small>キムテゴン</small> 最初の朝鮮人神父金大建を処刑
1866	丙寅の教難	最大の受難 興宣大院君による大虐殺 約8000人処刑

1791年、儒者であり天主教徒である尹持忠と権尚然が、北京にいた司祭の教えに従って、祖霊を象徴する位牌を焼き捨て逮捕、処刑された。キリスト教では祖先祭祀は偶像崇拜にあたるとして禁止されていたのだ。朝廷はこれを伝統である儒教体制に対

¹⁵ 同注 11 p.67

¹⁶ 同注 11 p.26

¹⁷ 同注 11 p.69

¹⁸ 柳東植は『韓国のキリスト教』中でこの2人の処刑をもって初の殉教者としている

する挑戦と判断し、2名を処刑し、西学書を焼却処分にした。これが、朝廷による初のキリスト教迫害である。

1801年の辛酉の教難では、カトリックの指導者であった李承薫ら、朝鮮に入国した初の祭司である中国人の周文謨しゅうぶんもを含む約300名が殉教した。この迫害の中で、キリスト教徒の一人、黄嗣永(ファン・サヨン)が中国教会へ援助を求める文書を中国にもたらそうとして逮捕された。この文書は衣類に隠すため紙ではなく絹布に書かれ、1万3311字にも及ぶ。内容には、迫害を受ける朝鮮のキリスト教徒救出のために、中国と西洋諸国に朝鮮を制圧してほしいと訴える部分もあり、黄嗣永は反逆者として処刑された。

1831年 教皇グレゴリウス16世、朝鮮教区を北京教区から独立させる

1837年 フランス人司祭3人が中国経由で来朝

カトリックを信仰し近代志向をもつことで保守的な儒教政権を脅かしていた新進勢力は、辛酉の教難によって一時下火となったが、再びカトリック教会は拡がりを見せる。上の2つにみえるキリスト教会の成長は、保守的な支配階層にとって一大脅威となり、政権内部の党派抗争も絡んで1839年の己亥の教難へ繋がる。この際、国王憲宗(在位1834-49)の名で「斥邪綸音せきじやりんいん」が發布され、カトリックが国を滅ぼす邪教であることを公にした。この禁教令は漢文とハングルハングルの混用文で作成されており、このことはキリスト教の信仰がハングルを使う下流層や婦女にも伝わっていたことを物語っている¹⁹。そして、この教難の殉教者には、1837年来朝した3人のフランス人司祭が含まれており、彼らは朝鮮における最初のヨーロッパ人殉教者となった。

その後も国王憲宗はキリスト教への態度を硬化し、朝鮮人で初めてカトリック司祭となり上海から朝鮮へ戻った金大建を処刑した。(丙午の教難)

哲宗(1849-64)代にはキリスト教に対してやや寛大であったが、哲宗の没後実権を掌握した興宣大院君は、1866年から3年もの間、最大規模の迫害である丙寅の教難をもたらした。この教難では、約8000人もの信者が虐殺されたといわれる。1838年の時点で朝鮮の信者数は約9000人であったといわれている²⁰ため、朝鮮王朝はキリスト教信者を全員処刑し、キリスト教信仰を根絶やしにしようという意図をもっていた。

これを引き起こした要因の一つは、西洋列強の侵略勢力＝キリスト教という見方である。この見方は、1801年の辛酉の教難の際に黄嗣永が記した朝鮮を制圧して欲しいという反国家的文書や、江華島で略奪行為を行ったフランス軍艦に通訳として搭乗し

¹⁹ 同注11 p76

²⁰ 同注11 p75

ていたカトリック神父の存在を証拠とする。このような西洋の侵略勢力とカトリックを同一視する世界情勢の認識と、大院君が固執した鎖国主義、儒教的な保守主義が絡み合ってこの悲劇を生み出したのだ。

既存の伝統的な韓国の価値観と大きく衝突し、当時世界のどんな宣教地よりも大きい衝突と葛藤を生んだ²¹。

韓国カトリック初期の受容史は、他に例を見ない葛藤と迫害という衝突の過程を辿ることになった²²。

このように、朝鮮キリスト教の初期 100 年には、世界最大といえるほどの迫害と衝突が生じていた。この要因には、キリスト教が朝鮮の伝統や体制に相反すること以外にも、政権争いに利用された点も挙げることができる。一方で、迫害の後半で殉教者数が増すことから、キリスト教の信者数が増加していることも読み取ることができる。

第二節 プロテスタントの広がり

現在、韓国では国民の 27.6%がキリスト教徒であることは序章で述べた。その内訳は、プロテスタント(韓国では改新教と呼ばれる)19.7%、カトリック(天主教)7.9%であり、韓国ではプロテスタント信者の割合が約 2.5 倍高くなっている。

カトリックよりも 100 年遅れて入ってきたプロテスタントはどのように民衆へ広がり信者を獲得していったのだろうか。

朝鮮における初期プロテスタント宣教の試みは以下の 2 回がある。しかし、当時はカトリックと儒教体制が対立しており、大院君の鎖国政策(1864-76)が実施されていたために、この 2 度の試みは失敗に終わる。

西暦	出来事	結果
1832 年	ドイツ系ユダヤ人牧師カール・ギュッツラフがイギリス商船で来朝	朝鮮は布教を頑なに拒否
1865・66 年	イギリス人宣教師ロバート・トマスがアメリカ商船で来朝	漢文の聖書を配る。2 度目の上陸で処刑

²¹ 徐正敏『韓国キリスト教史概論 その出会いと葛藤』(かんよう出版、2012 年) p.11

²² 同注 21 p.13

1870年代末から、新しい試みでプロテスタントを布教しようとする宣教師が2人登場する。中国東北地方に駐在していたスコットランド出身のジョン・ロス (John Ross、1842年-1915年) とジョン・マッキンタイヤー (John McIntyre、1837-1905) である。彼らは従来とは異なり、国外の朝鮮人と接触して聖書のハングル翻訳を進めることに力を入れた。

朝鮮と清国の国境付近で貿易に従事していた徐相崙(ソ・サンリョン)らは、初めのうちは経済的利益や外来文物への好奇心でロスらの韓国語教師になるが、徐が生死の分かれ目でマッキンタイヤーに命を救われたことをきっかけに、プロテスタントに関心を寄せ、聖書のハングル翻訳に参加する²³。徐ら4人は1879年に受洗し、彼らが朝鮮初のプロテスタント受洗者となった。1887年には『新約聖書』のハングル翻訳が完成し、5000部が印刷された。徐はこの聖書を配りながら、故郷である黄海道の松川(ソルネ)に朝鮮初のプロテスタント教会を設立し、ソウルの南大門周辺に拠点を置き、宣教活動を始めた。

ここで特徴的なことは、李承薫らのカトリック入信と同じように、徐相崙らが強制や勧誘なしに自発的にプロテスタント受洗を志願したことである。朝鮮プロテスタント教会が外国人宣教師によってではなく、朝鮮人自らの手によってはじめられた点も同様に特徴的だ。

これらは中国からの接触であるが、日本も朝鮮宣教に関して密接なつながりがある。1882年に朝鮮使節の一員として日本へ渡った李樹廷(イ・スジョン)という両班の学者は、1883年に日本で受洗し、聖書のハングル翻訳に着手した。同年に、漢文聖書にハングルの仮名を振った懸吐(ヒョント)聖書を刊行した。これと同時にアメリカの教会は韓国への宣教師の派遣を決定する。李が翻訳したハングル翻訳聖書は、アメリカ人宣教師ホレイス・グラント・アンダーウッド(Horace Grant Underwood、1859-1916)により朝鮮に渡る。

このような経緯で、プロテスタントの宣教師を初めて朝鮮に派遣した国はアメリカであり、韓国プロテスタントとアメリカの密接な関係性が構築されていく。

しかし、高宗(在位 1863-97)はアメリカ人宣教師による宣教は許可せず、医療と教育事業を行う許可のみを与えた。ここから、アメリカ人宣教師による医療・教育面での朝鮮の近代化が進められることとなる。

²³ 同注 21 p.16

鎖国思想の強かった朝鮮王朝において、西欧文化の信用を勝ち取り、宣教師たちの安定的活動の道を作ったのが、医療宣教師ホレイス・アレン(Horace Newton Allen、1858-1932)だ。アレンは、アメリカ公使館の付属医師という身分で入国したのだが、1884年の甲申政変で大けがをした閔妃の甥、閔永翊(ミン・ヨンイク)の治療に呼ばれ、当時の漢方医学では治せなかった刺し傷を西欧医学の手術で無事回復させた。この功績によりアレンは王室の侍医に任命され、1885年、韓国初の西洋式病院である廣海院(直後に済衆院と改名)が王室から下賜される形で設立された。これは韓国最初のプロテスタント宣教機関であり、国家が経営費用を負担しアメリカの宣教部が医師を提供する合作の形をとった。これは世界宣教史上ほぼ唯一の事例である²⁴。済衆院は、訪韓する宣教師の活動拠点となり、宣教師たちはここで適応訓練を受けていた。また、医療活動を行うだけでなく、朝鮮の人に対する医学教育も行っていた。これらの点で、アレンが設立した済衆院は、韓国キリスト教会史において大きな意義を持つ。

同時期に、アメリカの医師兼宣教師によって民間医療機関、女性専用病院の保救女館が開設された。

1885年には、アメリカ人宣教師ヘンリー・アペンゼラー(Henry Gerhard Appenzeller1858-1902)(メソジスト派)とアンダーウッド(長老派)が、教育宣教師として仁川港に到着した。アペンゼラーは教師として、英語を習いたがる学生を集め1886年に培材学堂を設立した。アンダーウッドは済衆院の医学学校で教師として働き、孤児を集めて始めた学校は後に愼新学校(延世大学の前身)となる。彼は名門私立大学延世大学の設立者として名を残し、死後はソウルの楊花津に埋葬され、韓国キリスト教長老会の父と呼ばれる人物となった。

彼らと同時期に活動を始めた女性宣教師メリー・スクラントン(Mary Fletcher Benton Scranton1832-1909)は、後の梨花女子大学となる梨花学堂を設立した。朝鮮での一般女子の教育はキリスト教宣教師なしには存在しえなかったともいわれ、女性地位向上の契機となった。

1890年代には韓国教会によって教育機関が次々と設立され、1909年の統計によるとプロテスタント系の学校は、初等・中等教育機関を中心に950校余りあったとされる²⁵。

主な教派である長老派とメソジスト教会(監理教会)の信者数は、宣教10年を過ぎた1895年に1590名になっていた²⁶。

²⁴ 同注 21 p.19

²⁵ 同注 9 p.97

²⁶ 同注 12 p.47

このように朝鮮におけるプロテスタントの初期は、王朝により布教が許されなかったことで、医療と教育事業が中心の宣教活動になっていた。プロテスタント教会は、初期段階から布教対象を下級層に定め、儒教倫理において抑圧されていた女性や下級層の人々を、近代学問の力によって教育し、自立させ、社会貢献できる存在にすることを布教の軸としていた。教会の文化活動により、ハングルや医療、教育が女性や下級層にまで普及し、朝鮮の近代化が主導された。

また、プロテスタント教団による近代教育事業推進の結果、知識人層の新たな中心人物らはキリスト教の信仰を持つようになった。

第三節 キリスト教の土着化

第一節で述べたように、初期カトリックは国を滅ぼす邪教として迫害の対象となった。黄嗣永の事件からも、キリスト教は反民族的宗教であるという認識が定着していた。そこで、プロテスタント宣教師たちはカトリックとの差別化を図る「異体宣言」によって、プロテスタントは反民族の進路を辿らないことを宣言する。これは、宗教改革によって生まれたプロテスタントの教理である「政教分離」に由来するもので、プロテスタントは政治的干渉を排除するという意思表示であった。カトリックの「外来性」「西歐的」「反民族的」といった特徴を払拭しようと努力したプロテスタント宣教師たちによって、また、第五章で述べる韓民族の持つ霊性によって、朝鮮プロテスタントは「民族宗教」という性格を形成する。

柳東植は、1910年ごろには既にプロテスタントの民族宗教化が始まっていたと述べる。その表れには、ハングルの使用と復興会(ブフンフェ)があるとする。

これまでの仏教と儒教は漢文を重視する漢文の宗教であったのに対し、プロテスタントは徐相崙や李樹廷らの翻訳により、初めからハングルによって受容された。また、中国を通じて伝来したカトリックは神を表すのに漢字の「天主」を用いるが、プロテスタントでは朝鮮人が普遍的に信じる天の神「ハヌニム」を用いて表す。

復興会とは、教会組織の中に安住して活力を失った教会人に対して霊的なリバイバルを呼びかける運動であり、伝道集会である。朝鮮人の宗教心の底を流れるシャーマニズム(巫教^{ふきょう}坐教)にも通じることから、復興会は平壤から半島南部まで全国に波及し、教会に大きな成長をもたらした。

第四章 キリスト教の成長と民族運動

プロテスタントの宣教が開始された時期は、朝鮮半島の権益を巡って列強が進出してくる帝国主義の時代であった。1894年には日清戦争、1904年には日露戦争が勃発し、朝鮮は戦場となる。1910年には朝鮮半島は日本の植民地となり、国権を失う。国を失った朝鮮民族が希望を見出し、精神の拠り所としたのが、新宗教キリスト教であった。このような激動の社会情勢の中で、韓国キリスト教は驚くべき急成長を遂げる。

第一節 併合から解放までのキリスト教

1910年、朝鮮統監府が朝鮮総督府に変わり、朝鮮半島は完全に日本の植民地となった。初代総督の寺内正毅は、憲兵警察を全国におき武断統治を始め、啓蒙活動に関わっていたキリスト教を弾圧する政策をとった。しかし、当時朝鮮キリスト教は信者数が20万人を超え²⁷、民族意識を持つ最大の組織であった。キリスト教信者は人格の尊厳性と自由・平等に対する信念を持つため、それらの教えが民族意識につながっていたのだ。さらに、全国的組織力を持ち、宣教師や海外派の信者は海外の情報収集手段として国外ともつながりを持つ、唯一の集団であった。つまり、日本が朝鮮統治に成功するためにはキリスト教と闘わねばならなかった。初代の朝鮮統監であった伊藤博文も、「日本にとって最大の危険な存在の一つは、朝鮮キリスト教会である」と述べたことがある²⁸。その言葉が予言となり、伊藤博文は1909年にカトリック信者であった安重根(アン・ジュンゲン)によって暗殺されるのだ。

キリスト教指導者らは、朝鮮の国権喪失後から、教育や啓蒙を通じ独立運動を進め組織を形成した。しかし、そうした組織は総督府によって総督暗殺を企てた陰謀罪をでっちあげられるなど、逮捕・拷問・投獄されるに至った。さらに、1913-15年にかけては、キリスト教が行う教育や医療活動を制限し、自由な教会の開設も禁じるなど弾圧を強めた。

1918年にアメリカ合衆国大統領ウッドロウ・ウィルソン(Woodrow Wilson、1856-1924)が「14か条の平和宣言」を發布すると、その内容にある民族自決や植民地問題解決に影響を受け、朝鮮の民族意識が高揚する。日本に土地所有権までも奪われてい

²⁷ 同注 11 p.77

²⁸ 同注 11 p.78

た朝鮮の民衆は、抗日意識を激しくし、1919年3月1日に独立運動を起こす。発端は、2月8日に東京留学中の学生が、神田にある朝鮮キリスト教青年会館で独立宣言書を発表したことだ。この三・一独立運動は、当時の主な宗教団体である天道教(東学の改称)、キリスト教、仏教の各組織で計画された。3月3日の高宗の葬儀のためソウルに集まっていた民衆は、民族代表らが宣言書を読み上げると、彼らに続き、「大韓独立万歳」を叫びながらデモを行った。運動は、宗教や階層を問わず全国に広がって半年間続き、200万人以上が参加した。

植民地統治下の朝鮮における最大の民族運動となった三・一独立運動は、結局、朝鮮の独立という目標を果たすことはできず、失敗に終わる。憲兵警察と軍隊は群衆に向かって発砲し、教会や民家を焼き払った。死者は7500名を超え、負傷者は約1万6千人に達した。日本は三・一独立運動を不穏な民族主義者による「騒擾事件」と断定し、多数のキリスト教信者が検挙された。教勢が盛んな地方では虐殺も行われ、そのうちの一つ、水原(スウォン)の堤岩里(チェアムリ)教会の放火・虐殺事件は有名である。

キリスト教会はこの独立運動に準備段階から積極的に関与しており、全国的組織と国外とのネットワークを使い、結果として、運動の中心的役割を果たした。また、従来、キリスト教会は個人の救いを重視する保守的な傾向にあったが、歴史的問題や民族問題への関心を呼び起こし、三・一独立運動においては「民族教会」として機能していた。天道教や仏教の組織と志を同じくして民族救済運動に乗り出し、協力関係を築いて歴史に参加したことは、キリスト教が外来宗教から民族宗教へと変化したことを表している。

三・一独立運動後、日本政府はキリスト教に対する政策を変更した。それは、キリスト教系の学校では宗教と朝鮮語を教えることができ、朝鮮語を話すことができるようにするものだった。これによってキリスト教系学校の生徒数が著しく増加した。また、教会設立が許可制から届出制に変更されたことで教会員も増加した。

朝鮮キリスト教は日本統治下において激しい弾圧を受けたが、1910年には7万人であった信者数を1920年には21万人へ3倍も伸ばしていた²⁹。

1920年代半ばからプロテスタント教会は農村における布教活動を活発化させていた。YMCA(キリスト教青年会)が中心となり、日本統治政策により疲弊した農村で、生産性向上と所得増大のための改革が行われた。その他にも識字教育を行うなど、積極的に社会救済に参加していた。

²⁹ 同注 11 pp.175-176

1930年には、第2の復興会運動が起こる。主導者であるメソジスト派の李竜道(イ・ヨンド)は、神秘主義に基づき、全国の集会でカリスマ性を発揮し民衆への圧倒的影響力を誇った。しかし、李は当時の教会を批判し、朝鮮教会から異端視されていた。この時期には、神秘主義的な新たな信仰グループがいくつか登場し、1950年代以降に生まれるカルトの母体となった。

1930年代半ば以降、朝鮮キリスト教の存立を脅かす敵が現れる。宗教信仰の外面的な表現行為の侵害だけではなく、信仰信念そのものに変形をもたらす抑圧を受ける。それが、日本による「神社参拝」の強制である。

日本は皇民化政策の一環として朝鮮語の使用禁止と創氏改名に加えて、神社信仰の強制を朝鮮半島の人々へ課した。キリスト教徒にとって、神以外のものを崇拝することは偶像崇拜に当たるため、朝鮮キリスト教会は強く反発した。これは、初期プロテスタント宣教師たちが運営する多数の教育機関の存続を脅かす存在ともなった。朝鮮総督府は、神社参拝は宗教儀礼ではなく国家儀礼であるため、キリスト教信仰に触れないと説明した。これを受けて、カトリック教会は神社参拝を行うことを決定し、プロテスタントの中でもメソジスト教会が神社参拝を受け入れた。参拝を拒否した長老派は迫害を受けることになり、聖職者や信者は逮捕され、殉教する者が50名を超えた。

日本の国家神道と朝鮮のキリスト教の決戦の結果は、キリスト教が日本に屈従した。この神社参拝問題は各宗派内での分裂を呼び、神社参拝を受け入れたカトリックは抗日運動に参加しなかったとして勢いを失う原因となった。

1941年に第二次世界大戦が始まると、朝鮮教会は軍資金を献納し、教会の鐘は兵器鋳造のために献納された。YMCAは解散させられ、ほとんどの牧師は逮捕され、教会は軍用に使われた。

朝鮮キリスト教は、日本による植民地化で国を失った人々が所属意識を感じられる唯一の拠り所となり、独立運動の中では精神的支柱の役割を果たしていた。その過程で、反民族性や外来性といった従来の特徴を払拭し、教会が民族国家の歴史に参与して民族教会の性格を帯びていった。1930年代には新たな信仰グループが登場し対立を生むが、一方でそれは思想の成熟過程を示しているといえる。柳東植はこれを、キリスト教信仰の「主体化」と表している。日本の神社参拝強制と弾圧は大きな反発を生み、現在までつながる教派の分裂という影響を残した。

日本帝国主義により朝鮮の人々のアイデンティティが破壊された激動の社会で、キリスト教は日本に対抗する盾として作用し、着実に成長していたのだ。

第二節 解放後の南北分断から韓国の民主化運動

国権を失い民族としてのアイデンティティまで奪われた日本統治が終戦とともに終了し、朝鮮半島は解放を迎える。しかし、解放後に待ち受けていたのは、民族の独立ではなく民族の分断という悲劇であった。植民地時代に朝鮮の民族意識を高揚させる役割を果たしたキリスト教は、解放後、北のソ連軍政下では弾圧され、南のアメリカ軍政下では信仰の自由を得ることになった。朝鮮戦争後、朝鮮半島の北緯 38 度以南に樹立された大韓民国では独裁状態が続き、学生とクリスチャンが中心になって民主化闘争が繰り返された。解放後も続いた激烈な社会変動の中で、キリスト教が果たした役割と成長とはどのようなものであったのだろうか。

西暦	出来事	内容
1945 年 8 月 15 日	植民地解放	北にはソ連、南に米軍が進駐
1948 年 8 月 15 日	大韓民国政府樹立	初代大統領李承晩
1948 年 9 月 9 日	朝鮮民主主義人民共和国樹立	金日成主席
1950 年 6 月 25 日	朝鮮戦争	北朝鮮が南に侵攻
1953 年 7 月 27 日	休戦協定締結	北緯 38 度線で分断
1952-1960 年	李承晩の独裁政権	憲法改正の暴挙、不正選挙
1960 年 4 月 19 日	四月革命	デモで李承晩政権倒れる
1960 年 6 月 15 日	民主党新政府	総選挙による新政府
1961 年 5 月 16 日	5.16 軍事革命	朴正熙中心の軍事勢力によるクーデタ
1961-1979 年	朴正熙軍事独裁	ベトナムに軍派遣、経済開発、改憲強行
1980-1987 年	全斗煥軍事独裁	民主化運動「ソウルの春」弾圧

1945 年、日本植民地から解放された朝鮮半島は、北はソ連、南にはアメリカが進駐する。南は信仰の自由を享受したのに対し、北では共産主義政権下で弾圧を受けたため、北の信徒の多くは南に逃れた。平壤は朝鮮の「エルサレム」と呼ばれ、教勢や影響力の程度では、北が 7 で南が 3 という北優位の傾向があった³⁰。その流入と教会機関再建、また朝鮮戦争期に訪韓した世界的な説教家による大集会の結果、韓国のプロテスタント信者数は植民地解放時の 20 万人から、1953 年には 50 万人に急成長した。

1950 年に勃発した朝鮮民族史上最大の悲劇である朝鮮戦争では、韓国教会は世界各地へ支援を求める韓国と世界の窓口の役割を果たした。韓国キリスト教は民族危機への対応を探るため「戦時対策非常機構」を作って、世界の教会へ外交的努力を続けた。また、国内のキリスト教青年を中心に「十字軍」を結成し、共産主義と戦線で直

³⁰ 同注 21 p.65

接闘う準備をした。しかし、北朝鮮地域や共産軍が占領した韓国地域では大規模なキリスト教信者の虐殺が行われた。

このような状況下で、韓国キリスト教は徹底した「反共イデオロギー」を形成し、南北の対立と分裂の最前線に立つ役割を果たした。これは、朝鮮戦争下の韓国教会が、他のどの時期よりも、民族への救済と奉仕の過程に献身的に参与したことを表す。その一方で、南北の和解ではなく、分裂へ主導するという否定的な役割を担っていたともいえるだろう。

南北分裂以降、アメリカ軍政下の韓国では、アメリカ教派教会の宣教師たちが帰還し、宣教活動のみならず医療・教育・慈善など様々な事業が展開された。韓国プロテスタントは通訳や情報提供の役割を通じて米軍当局と密接な関係を持っていたため、この協力関係が「キリスト教」と「民主主義」の同一視を生んだ³¹。米軍に登用された韓国人のほとんどはアメリカ留学経験があり、キリスト教信者で、とりわけ延禧専門学校(延世大学の前身)関係者であった。大韓民国建国直後、政府高官の4割がキリスト教信者であったとされる³²。キリスト教信仰を持つことが支配意識や優越意識につながっていたのだ。

アメリカ軍政に次いで1948年に誕生した初代大統領李承晩政権下でも大統領本人を含めたキリスト教信者は社会的リーダーシップを発揮した。そのため、李承晩の終身執権計画による度重なる憲法改正と不正選挙の横暴に対して、韓国キリスト教は黙認するばかりか加担していた。李承晩の暴挙に不満爆発した国民は、1960年4月19日に学生層が中心となってデモを起こし政権を倒す。これは四月革命(四・一九革命)と呼ばれ、民衆による初の民主化革命である。キリスト教は政治と癒着し墮落した様相を見せていた一方で、代表的なキリスト教大学延世大学の学生会は、四月革命の際に「独裁側に偏って、本来の任務を忘却したキリスト教界の指導者は覚醒しろ」と声明を出している³³。同じ韓国キリスト教会の中でも、民衆は政権崩壊を望むほどの不満を抱えていたことが分かる。この革命は、韓国キリスト教界に大きな衝撃と反省を呼び起こした。

四月革命後に発足した新政府は、1年も経たないうちに1961年の五・一六軍事クーデタにより崩壊する。政権を掌握した朴正熙は、憲法を改正して民主共和党をつくり、1963年には大統領となる。経済政策は成功し、韓国は「漢江の奇跡」と呼ばれるまでの経済成長を遂げたが、長期政権を目論んで大統領三選改憲を強行するなど、軍

³¹ 同注9 p.118

³² 同注11 p.142

³³ 同注22 p.92

事独裁体制は国民の反感を買い、多くのデモを生んだ。また、この共和党政権は仏教信徒が多く、1975年の大統領令では旧暦の4月8日を釈迦誕生日として祝日に定めるなどの庇護政策をとった。社会変動により巻き起こる不安も相まって、仏教人口は1964年から5年間で、5倍の500万人に増加していた³⁴。

その一方で、1960年代から70年代にかけて、キリスト教の信者数も急激な増加をみせている。四月革命により崩壊した李承晩政権を支持していた韓国キリスト教は一時委縮したが、そのことにより、健全さと成熟を期する機会となった。1965年には、韓国プロテスタント開教80周年に合わせて全国福音化運動が起こり、以降、各教派が協力して全国で伝道集会が開かれた。73年にはアメリカ人牧師ビリー・グラハム(Billy Graham、1918-2018)が地方5都市とソウルで大伝道集会を開催し、最終日には約110万人が集まったという。このような大規模集会は74年、77年にも開催され、韓国教会は爆発的成長を遂げた。韓国のプロテスタント信者数は1959年に132万人、1969年に290万人、1978年に529万人と、10年ごとに2倍になるペースで増加していった。

軍事政権下でのキリスト教拡大を示すものに、国家朝餐祈禱会の発足がある。これは現在まで続く、大統領や政治家たちも出席するキリスト教の礼拝行事である。1965年に与野党のキリスト教信者が参集したことが始まりであり、68年に朴正熙が出席したことを契機に「大統領朝餐祈禱会」として正式に発足した。現在も「年例国家朝餐祈禱会」として、大統領がキリスト教信者かどうかに関係なく継続されていることから、キリスト教会の政治への影響力がうかがえる。

1970年代の朴正熙軍事独裁体制に対する民主化闘争において、最前線で闘ったのが学生とクリスチャンである。73年にキリスト教職者らは「1973年キリスト者宣言」を発表し、独裁政権への宣戦布告と民主化闘争のキリスト教的原則を明らかにした。柳東植はこれを三・一独立宣言に並ぶ歴史的宣言だとする。同年にはソウル大学学生会がデモ集会を開くなど、民主化闘争は大統領が恐れるほどに拡大していった。74年に朴正熙は大統領緊急措置法第一・二号を宣布し、自身が制定した新憲法への批判行為を一切禁止することで民主化闘争の弾圧を図る。それにもかかわらず聖職者や学生たちは闘争を続けたため、政府は「全国民主青年学生総連盟事件」で203人を逮捕し、軍事裁判で死刑含む極刑を下すという激しい弾圧を行った。政府はさらに、この事件の背後人物として多くの牧師や主教を逮捕した。このとき逮捕された池学淳(チ・ハクスン)主教が発表した、政権を批判する「良心宣言」により、これまで沈黙を続け

³⁴ 同注11 pp.146-147

ていた韓国カトリック教会が民主化闘争の最前線に躍り出る。カトリック教会は社会運動の主導的役割を担うことで、関心や支持を集め信用と影響力を得た。ソウルの明洞聖堂は民主化の聖地と考えられ、76年3月1日に開かれた三・一独立運動57周年記念祈禱会では朴政権の退陣を要求する宣言を出し、弾圧されるという「明洞事件」が起きた。大統領緊急措置法による弾圧とキリスト教や学生による民主化運動の増勢が繰り返された結果、79年に朴正熙は射殺され、軍事独裁政権は終わりを告げた。

1980年には、民主化を求める全国的なデモがピークを迎え、民主化への期待から「ソウルの春」とも呼ばれた。しかし、五・一七クーデタで軍指揮権を握った全斗煥(チョン・ドファン)による新たな軍事独裁政権が生まれる。翌日の5月18日から27日にかけて、韓国南部の光州で軍部クーデタに抗議した学生と市民による光州民主化運動が起こるが、軍部により鎮圧された。全斗煥政権下の87年6月には、民主化を要求していた学生デモ隊300名余りが警察に追われて明洞聖堂に逃げ込み、1週間に渡って籠城した。軍は聖堂内に立ち入ることはなく、当時の金寿煥(キム・スファン)枢機卿の申し入れによって学生の安全は保証され、無事に解放された。このデモを含む6月民主抗争の結果、大統領直接選挙制改憲などの民主化措置が約束され、全斗煥が辞任することで韓国の民主化が実現した。

第三節 社会変動によるキリスト教信者の増加

1910年の日本による朝鮮半島統治の開始から、1987年の韓国民主化の実現まで、朝鮮半島では劇的な社会変動が繰り返された。世界的にも稀で、驚くべき現象と言われる韓国キリスト教の成長は、これらの朝鮮半島の急激な社会変化と密接に関係している。悲劇を繰り返した不安定な社会で、教会共同体に所属することにより安定を求め、また、韓国の経済成長に伴う都市化で故郷を離れた人々が教会に拠り所を求めたとも考えられる。

特に韓国でプロテスタントの成長が顕著であったことには次のような要因がある。

- (1)現在に続く教育・医療事業を主導し、近代化の象徴となった
- (2)日本統治時代に神社参拝問題に抵抗した抗日組織であった
- (3)アメリカとの結びつきが強く民主化を導いた存在とみなされた
- (4)政治と関係性が深く、政治的・社会的影響力を持った

主な社会変動とプロテスタント信者の増加の相関は以下の通りである³⁵。

併合	1910年 7万 3571	1920年 21万 3000	約 3 倍増
解放と朝鮮戦争	1945年 30万	1957年 84万	2.8 倍増
朴正熙軍事独裁下	1972年 319万	1981年 763万	約 2.4 倍増

プロテスタントに較べて人数規模は小さいが、カトリック信者も信者数を伸ばしていた。カトリック教会は、1960年代末からプロテスタント教会よりも積極的に民主化問題に関心を払うようになった。1970年に78万人だったカトリック信者は、1981年には140万人を超え、10年間で約1.8倍の増加をみせている³⁶。1990年代には、プロテスタントがマイナス成長となる一方で、カトリックは信者を増やした。この要因も、カトリックが軍事政権に批判的姿勢を取ったことで、若年層の信頼を得たからだと言われる³⁷。

³⁵ 同注 11 p.176

³⁶ 同注 11 p.177 表による

³⁷ 同注 11 p.165

第五章 キリスト教受容基盤となった伝統信仰

朝鮮半島においてキリスト教が短いスパンで多くの信者を獲得した要因は、激しい社会変動だけではない。大規模な復興会や、有名牧師の大伝道集会を開催する度に信者を増やすことができたのは、キリスト教の何かしらの要素が朝鮮半島の人々の心に響いたからではないだろうか。朝鮮キリスト教史を研究した学者たちは、韓国でのキリスト教信者の爆発的増加が、朝鮮の伝統信仰に由来する朝鮮人の心性が関係すると述べる。

第一節 シャーマニズム(巫教)とキリスト教

シャーマニズム(巫教)は韓国の古代宗教の基本とされる。神や精霊と直接交渉をはかり、自身に神を降ろすことで予言や病氣治癒といった現実利益を追究するシャーマンを中心とした信仰である。シャーマンは女性であり、信仰者もほとんどが女性である³⁸。「クツ」と呼ばれる儀式の際、神を降ろす過程ではシャーマンによる音楽や舞踏が行われるが、音楽というよりは雑音・騒音と化し、舞踏というよりは激しい乱舞である。カンヌ国際映画祭で上映されたことで有名な2016年の韓国映画『哭声/コクソン』でも、^{ムダシ}巫堂(シャーマン)の祈禱シーンは、その激しさとダイナミックさに圧倒される。李氏朝鮮時代にはシャーマンは被差別集団に分類され、1970年代の近代化以降シャーマニズムは迷信として批判された。しかし、その後伝統文化として認められるようになり、現在ではシャーマンの儀式は国の文化財に指定されている。

1907年から始まったプロテスタントのリバイバル運動である復興会では、シャーマニズム的要素が強調され、朝鮮人の根底に流れる宗教感情に訴えた。復興会では聖霊の降臨を待ち望むことが特徴の一つであり、復興会を開催する牧師は自身の聖霊体験を通じて病気を治療する能力を得たとして信者から熱狂的人気を誇る者もいた。韓国でキリスト教を土着宗教にしようと努力した、アメリカ人のジェームズ・スカスゲール牧師(James Scarth Gale, 1863-1937)は、1888年から40年間の宣教を通じて、韓民族は聖霊に感動しやすいという点を発見し指摘した³⁹。序論で触れた世界最大の信者を誇る汝矣島純福音教会も、シャーマニズム的神秘主義を取り入れて発展を遂げた例である。

³⁸ 小倉紀蔵『心で知る、韓国』(岩波書店、2005年)p.177

³⁹ 同注2 p.175

韓国のキリスト教にはシャーマニズムの影響が色濃く、シャーマン信仰の土台がキリスト教の定着・成長に大きく貢献している。韓国のキリスト教はキリスト教とシャーマニズムが共存・混在しており、韓国社会に適応するためにキリスト教がシャーマニズム要素を受け入れたことが土着化につながった⁴⁰。

一方で、聖霊強調などの韓国独自のシャーマニズム的風習を著しく取り入れた韓国キリスト教は、欧米のキリスト教ともはや異質のものなのではないかという批判も生まれている。

第二節 儒教とキリスト教

1392年から1910年の500年間続いた朝鮮王朝で、儒教は国教化され今に続く儒教社会を作り上げた。しかし、政権と結びついて墮落するなど、18世紀には民族の危機を克服するだけの宗教機能を果たしていなかった。そのために、民衆は儒教を宗教ではなく民俗信仰と考えるようになる。現在でも、「儒教は宗教か」という議論がなされ続けている。韓国において、儒教は礼儀作法、葬礼、先祖崇拜などの部分で浸透しているが、宗教人口の各調査では、儒教が宗教と認識されていないことが分かる⁴¹。韓国統計庁の人口住宅総調査では、10年毎に宗教人口の統計を出している。それによると、1985年には韓国全人口の1.2%が儒教を信仰していると回答し、1995年には0.5%、2005年には0.2%、2015年に0.2%と低い割合かつ減少に推移している。現在、儒教を宗教として信仰していると考えられる韓国人はごく少数であり、儒教的文化は韓国人にとっては日常的なことであり、宗教文化としては特に意識されていないことが読み取れる。

18世紀朝鮮半島にキリスト教の波が押し寄せるまで、朝鮮王朝の前半の数百年という時間を費やし、朝鮮には儒教的社会が定着していた。朝鮮人の思想の根底をなす儒教の存在もまた、キリスト教の発展要因になっていた。

1節で述べた朝鮮の原信仰シャーマニズムは、シャーマンの多くは女性であり、女巫教である。そこへ、朝鮮王朝時代に儒教を基盤とする父系制社会が築かれることで、同じく父系制社会で生まれたキリスト教を受容しやすくなった。

韓国儒教研究を専門とする京都大学大学院教授の小倉紀蔵は、儒教の「理」と「気」の要素が、キリスト教の世界観の構図に酷似している点を、韓国におけるキリスト教成功の最大の理由として挙げている。

⁴⁰ 同注2 p.182

⁴¹ 同注38 p.157

「理」とは道德性・原理・道德・理念・理性であり、「氣」とは物質性・身体・感情・感性・利益などをいう。(中略)

この国におけるキリスト教信者の類型は二つである。ひとつは、儒教的「理」(仁義)に代わる新しい水平的な「理」として理性的な信仰を生み、抗日運動や民主化運動の重要な部分を担った。社会のエリート層の信仰はこの類型である。これに対してもうひとつの類型は、シャーマニズム及び仏教を吸収し、魂の救済の側面を強めながら膨張した。抑圧され貧しい生活にあえぐ庶民の信仰はこれである⁴²。

韓国人には二重性があり、これは、儒教の道德性を表す「理」と身体・感情を表す「氣」の二面性に由来するとする。二重性とは言うが、「理」と「氣」は相離れずの関係であり、韓国人は自分たちの二重性に気づいていない。キリスト教においても、「理」と「氣」は対立しているのではなく、精神的基盤がどちらにあるかを示したにすぎない。

「理のキリスト教」の典型が、明洞聖堂と金寿煥枢機卿である。民主化運動の時代には、明洞聖堂は運動家たちの聖地となり、金枢機卿の発言は大きく注目された。これに対し、「氣のキリスト教」として成功を収めたのが純福音教会であり、個人の救済という利益や靈性に重点を置いた。

儒教が韓国人のキリスト教受容の基盤を作る一端を担ったとはいえ、儒教とキリスト教の全ての要素が相容れるものではない。儒教とキリスト教の対立項目として明白なのは、祖先崇拝問題である。キリスト教の側から見れば、儒教の祖先崇拝は一種の偶像崇拝にあたる。第三章第一節で述べたように、朝鮮キリスト教伝播の初期段階にはカトリック信者が祖先崇拝廃止のため位牌を焼却し処刑された。このように、朝鮮では、儒教の祖先崇拝と偶像崇拝を禁ずるキリスト教が対立していた。

これに対し、カトリック教会は柔軟に対応してきた。1939年にはローマ教皇が、儒教の祖先崇拝はあくまでも市民儀式であり宗教儀式ではないという宣言を出した。80年余り多くの殉教者を出した儒教とカトリックの対立は終わり、日本統治下で韓国カトリック教会は祖先崇拝とその祭祀を行うことが許容された。カトリック教会は祖先崇拝を容認することで、韓国において土着化したのである⁴³。

⁴² 同注 38 p.172

⁴³ 同注 2 pp.153-154

一方で、プロテスタントは現在もなお祖先崇拝を否定している。天主教、監理教、安息教など一部では祖先崇拝を市民儀礼として受け入れ、長老会も多少はこれに賛成しているが、韓国プロテスタントのほとんどは否定的立場をとる。

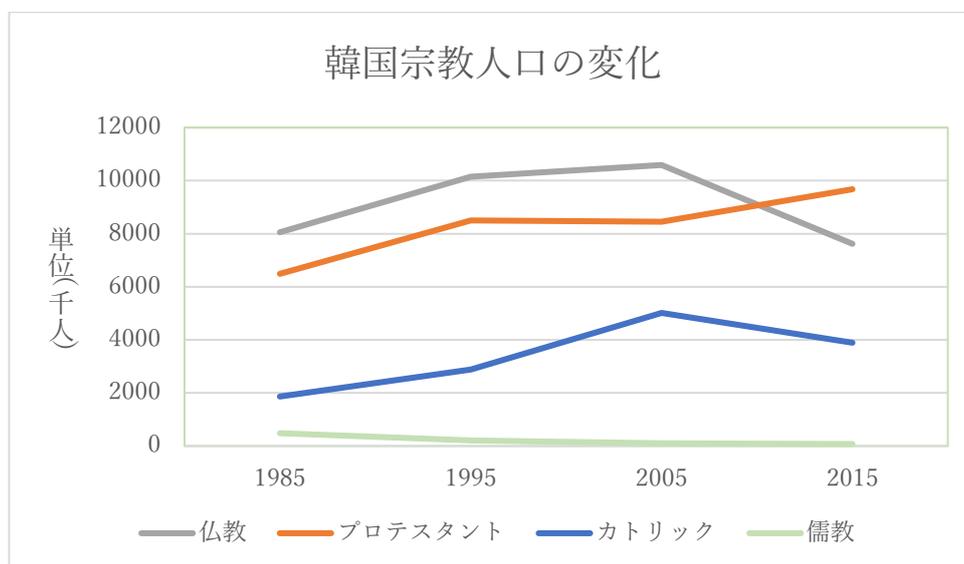
しかし、祖先崇拝が根付いていた儒教社会韓国で、いきなり祖先崇拝に関する一切を取り払ってしまえば、儒教からキリスト教へ改宗しようとする人々の理解は得られない。そこで、プロテスタントでは祖先の忌日に祭祀を行う代わりに、キリスト教式「追悼式」を行うことにした。儒教の祭祀をキリスト教の典礼に代替することが、キリスト教の布教に果たした役割は非常に大きい⁴⁴。

⁴⁴ 同注 9 p.150

第六章 韓国キリスト教会の問題点

韓国に伝わったプロテスタント教会はアメリカ型の教派教会であった。それらの教派は、日本統治時代の神社参拝問題と、戦後解放期の教会再建により度重なる分裂を起こした。その結果、各教派の教団よりも自己の教会を尊重する個別教会主義をとるようになり、信者は自分の嗜好に合う説教師を探して教会を移動するようになった。それにより、特定の教会に信者が集中し、大型教会が出現していく。この個別教会主義と、大型教会主義が現代韓国キリスト教の特徴であり、問題点でもある。

第一節 韓国キリスト教の現状



韓国統計庁が1985年に宗教人口調査を開始してから、最新の2015年までの10年ごとの宗教人口⁴⁵の推移をグラフに表すと以上のようなものである⁴⁶。

⁴⁵ 韓国統計庁「1985 인구주택총조사(1985 人口住宅総調査)」

https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1IN8505&conn_path=I2

「1995 인구주택총조사(1995 人口住宅総調査)」

https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1IN9506&conn_path=I2

「2005 인구주택총조사(2005 人口住宅総調査)」

https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1IN0505&conn_path=I2

「2015 인구주택총조사(2015 人口住宅総調査)」

https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1PM1502&conn_path=I2

⁴⁶ 柳東植は『韓国のキリスト教』において、1981年のプロテスタント人口を763万人、カト

1784年のカトリック伝播、1880年頃のプロテスタント伝播から、社会変動とともに爆発的増加を続けていたキリスト教は21世紀に入ってから停滞しているといえる。

2015年の統計調査結果で特徴的な点は、これまで1位を保っていた仏教が2位に落ち、これまで2位であったプロテスタントが1位に上がったことだ。また、宗教を持たないと回答した割合が47.1%(2005年)から10年で56.1%に10ポイント近く跳ね上がった点も目立つ。特に10代20代は宗教を持たないと回答した割合が60%を超えている⁴⁷。

しかし、この2015年の調査の信頼度には批判もある。2015年度からは、全数調査ではなく標本調査方式に変更された。調査標本は1000万人である。また、調査の取り方は、直接訪問が51.4%、インターネットアンケートが48.6%であった。前回とは変わって標本調査であった点、インターネットアンケートに高齢者が不慣れな点が不合理だと指摘されたのだ。仏教人口が前回調査から大幅に減少した要因には、高齢の信者が多い仏教が調査で不利だったことがあり、反対にプロテスタント人口が増加した要因には、他宗教より宗教アイデンティティが強いプロテスタント信者が調査に積極的に参加していたことが推測される⁴⁸。

第二節 社会的信頼を失った韓国プロテスタントの課題

現在の韓国キリスト教、特にプロテスタントに見られる特徴は、大型教会主義と個別教会主義である。大型教会主義はアメリカでもみられる現象であるが、個別教会主義は韓国プロテスタント特有のものである。社会変動による弾圧と再建、教義に関する衝突に起因する度重なる教派の分裂に加えて、神と人間の仲介者であるシャーマンになじみがあることでカリスマ的権威を誇る牧師を崇める傾向があり、これが個別教会主義の土台となっている。個別教会主義は、独裁をも可能にするカリスマ指導者を生み、聖書から逸脱し閉鎖性を持つカルト教団を多発させる原因となる。この結果、教会内の教勢拡

リック人口を143万人としており、韓国統計庁による1985年の統計よりもプロテスタント人口が多い結果となっている。柳の信者数は、James Huntley Grayson, *Early Buddhism and Christianity in Korea*, 1985, Leiden を参照している。

⁴⁷ 「신자 수, 개신교 1위… "종교 없다" 56%(信者数, プロテスタント 1位… "宗教なし" 56%)」(朝鮮日報 2016年12月20日

https://www.chosun.com/site/data/html_dir/2016/12/20/2016122000155.html 最終閲覧日 2022年1月28日)

⁴⁸ 同注 47

大のみを目指し、救済や社会事業に無関心な大型教会や、反社会的行動をとるカルト集団に対して、倫理性と社会性が欠如しているという批判が集まる。こうして昨今の韓国社会において、韓国プロテスタントは批判の対象となり、社会的信頼を失墜したのである。

2000年代に入ってから、韓国国民の批判を大きく受けた問題が「宗教家非課税問題」である。2007年、韓国のMBC放送が韓国の大型プロテスタント教会を痛烈に批判するテレビ番組「牧師様、われらが牧師様」を全国ネットで放送した。番組内では、信者から多額の献金を得ている大型教会、特に汝矣島純福音教会、監理派の金蘭教会、李明博元大統領が長老である所望教会を批判した。これらの大型教会では、世襲の慣習化により多額の献金の用途を含む教会の収支が明らかにされず、教会ごとの担任牧師一家が蓄財して贅沢な暮らしをしていることを取り上げた。番組の調査によると、汝矣島純福音教会の2000年度の収入は1700億ウォン(日本円で120億円)で、設立者であり担任牧師の趙鏞基の同年の収入は推定11億3000万ウォン(日本円で8000万円)にのぼるといふ。しかし、教会収入の75%にあたる信者の献金1300億ウォンの使途は、教会の役員にも知らされていなかった。趙は番組放送後に引退し元老牧師となるが、影響力が衰えることはなかった。

翌年には番組の続編となる「税金を納めなくてもいい人々」も放送されている。その中でもプロテスタント教会が大きく取り上げられ、宗教法人の非課税による韓国教会の不明朗な財政が指摘された⁴⁹。

韓国では宗教団体は公益のために働く非営利団体とみなされ、非課税が慣行化されていた。1968年に初代国税庁長が宗教者に勤労所得税を課すと明らかにしたが、宗教界の激しい抗議で課税を撤回し⁵⁰、それ以来50年後の2018年まで宗教家への課税は行われなかった。これは世界的にありふれた事象などではなく、経済協力開発機構(OECD)諸国の中で宗教人に税を課さない国は韓国だけだった⁵¹。宗教家の課税が義務化されるまでの道のりも、納税義務化法案の決議と修正、施行猶予を繰り返していた。一方で、

⁴⁹ 同注9 p.159

⁵⁰ 「[記者手帳] 宗教者への課税の議論はなぜいつも後退するのか」

(ハンギョレ 2017年12月23日 <http://japan.hani.co.kr/arti/politics/29320.html> 最終閲覧日 2022年1月28日)

⁵¹ 「[社説] 宗教人への課税、韓国キリスト教のためにも必要だ」

(ハンギョレ 2017年8月19日 <http://japan.hani.co.kr/arti/opinion/28228.html> 最終閲覧日 2022年1月28日)

2018 年の課税の義務化以前から、カトリック教会と一部のプロテスタント教会は自主的に税金を納めていた事実もある。

すべてのプロテスタント教会が課税に反対していた訳ではなく、カトリックや仏教の宗教団体のようにキリスト教の多くの牧師は課税に賛成していた。結局のところ、課税に反対していたのは莫大な収入を得る大型プロテスタント教会だけであった。ところが、多くの宗教団体が課税義務化に賛成した理由には、課税対象になったとしても税負担が軽いことがある。

韓国納税者連盟の資料によると、年俸 8000 万ウォンを受ける宗教家の場合、所得税を 125 万ウォン（約 13 万円）収めるだけで良いが、同じ所得のサラリーマンは、6 倍ほど多くの 717 万ウォン（約 76 万円）を払わなければならない⁵²。

ここからは、宗教家たちが納める税金が勤労所得者に比べてとても少ないこと、宗教家と勤労所得者の間の課税率は公平性に欠けることがわかる。

実際、課税義務化 3 年後である 2021 年に韓国の改新教(プロテスタント)NGO の教会財政健全性運動が行った調査では、回答者 134 人の牧師のうち 86%が課税制度に賛成している⁵³。少額の納税で教会の健全性を公式的にアピールできるのであるならば、賛成派が圧倒的なものも頷ける。

更には、2021 年 8 月には以下のようなニュースが報道された。

施行 4 年目の現在、教会財政健康運動が牧師 134 人を対象に行ったアンケート調査によると、回答者の 98%が 2020 年までに 1 回以上所得税を申告しました。しかし、このうち 66%が複雑な税務用語と税金計算のせいで大きな困難を経験していることが分かりました。（中略）

宗教人所得申告制度自体に対しては、牧師のほとんどが肯定的な反応を見せています。教会に対する信頼を高め、納税義務を果たしたことから来る満足感

⁵² 「韓国国会で宗教家への課税に合意、施行は 2 年先送り

(ハンギョレ 2015 年 12 月 1 日 <http://japan.hani.co.kr/arti/politics/22656.html> 最終閲覧日 2022 年 1 月 28 日)

⁵³ 「종교인 소득세 시행 뒤…목회자 86% “과세제도 찬성” (宗教家所得税施行後…牧師 86% “課税制度賛成”)

(ハンギョレ 2021 年 8 月 23 日 <https://n.news.naver.com/article/028/0002557687> 最終閲覧日 2022 年 1 月 28 日)

が最大のメリットに挙げられます。それだけに、すべての牧師が所得申告履行に困難を経験しないようにする制度改善が教団の課題として浮上しています⁵⁴。

宗教家の課税義務が議論され始めてから実に 50 年という時間を経て、韓国キリスト教団体が積極的に納税に努めるようになったことは画期的である。しかし、勤労所得者との間の課税率の公平性や申告制度の改善など課題は残り、同時に宗教家が政治界に与える強い影響力と結びつきが露呈している。

宗教家課税問題以外にも、キリスト教は数々の社会問題を引き起こす要因となっている。例を挙げると、大統領選挙の際に大型教会が票集めの組織になっていること、時に危険を伴う独自の海外宣教、コロナ禍で政府の防疫指針を完全に無視するカルト教団などだ。

このようなキリスト教関連の社会問題は、国民のキリスト教に対する批判とネガティブなイメージを呼び起こしている。韓国人のなかで、信仰する宗教を持たない割合が増加した原因もここに見出せるかもしれない。

朝鮮戦争時には海外からの支援を呼び込む窓口となり、韓国の民主化運動では最前線で闘った韓国キリスト教は、今や社会事業に無関心であり、教会同士の教勢拡大競争の過程で信者への倫理的指導も諦めていると批判を受けている。

これからの韓国キリスト教会は、社会を主導する力を持つ自身の影響力の大きさを自覚し、財政的にも社会貢献の面でも、韓国社会においてあるべき役割を果たすべきだろう。

⁵⁴ 「『종교인 과세』 4년차… 여전히 어려운 소득신고(『宗教家課税』 4年目…未だ難しい所得申告)」(Dairy GOOD NEWS 2021年9月1日 <https://www.goodnews1.com/news/articleView.html?idxno=117696> 最終閲覧日 2022年1月28日)

参考文献

書籍(著者名五十音順)

1. 浅見雅一、安廷苑『韓国とキリスト教 いかにして“国家的宗教”になりえたか』(中公新書 2173、中央公論新社、2012年)
2. 小倉紀蔵『心で知る、韓国』(岩波書店、2005年)
3. 崔吉城『キリスト教とシャーマニズムーなぜ韓国にはクリスチャンが多いのか』(ちくま新書 1598、筑摩書房、2021年)
4. 徐正敏『韓国キリスト教史概論 その出会いと葛藤』(かんよう出版、2012年)
5. 柳東植『韓国のキリスト教』(東洋叢書 5、東京大学出版会、1987年)

その他

1. 韓国統計庁「1985 인구주택총조사(1985 人口住宅総調査)」
https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1IN8505&conn_pat_h=I2
2. 韓国統計庁「1995 인구주택총조사 (1995 人口住宅総調査)」
https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1IN9506&conn_pat_h=I2
3. 韓国統計庁「2005 인구주택총조사(2005 人口住宅総調査)」
https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1IN0505&conn_pat_h=I2
4. 韓国統計庁「2015 인구주택총조사(2015 人口住宅総調査)」
https://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1PM1502&conn_pat_h=I2
5. 「韓国、集団感染した宗教団体の教祖を逮捕 防疫を妨害か」(朝日新聞デジタル 2020年8月1日 <https://www.asahi.com/articles/ASN8145RSN81UHBI00G.html> 最終閲覧日 2021年12月28日)
6. 「[삶과 추억] 세계 최대 단일교회 여의도순복음 창립자 조용기 목사 소천([人生・追憶]世界最大の単一教会 汝矣島純福音教会創立者趙鏞基牧師死去)」(中央日報 2021年9月15日 <https://n.news.naver.com/article/025/0003135143> 最終閲覧日 2021年12月28日)
7. 「조용기 목사 집유…재판부 “사회복지 기여 참작”(趙鏞基牧師執行猶予…裁判部“社会福祉貢献度酌量”)」

- (ハンギョレ 2014年2月20日 <https://n.news.naver.com/article/028/0002221831>
最終閲覧日 2021年12月28日)
8. 「신자 수, 개신교 1위… "종교 없다" 56%(信者数, プロテスタント 1位… "宗教なし" 56%)」
(朝鮮日報 2016年12月20日
https://www.chosun.com/site/data/html_dir/2016/12/20/2016122000155.html
最終閲覧日 2022年1月28日)
9. 「[記者手帳] 宗教者への課税の議論はなぜいつも後退するのか」
(ハンギョレ 2017年12月23日 <http://japan.hani.co.kr/arti/politics/29320.html>
最終閲覧日 2022年1月28日)
10. 「[社説] 宗教人への課税、韓国キリスト教のためにも必要だ」
(ハンギョレ 2017年8月19日 <http://japan.hani.co.kr/arti/opinion/28228.html> 最終
最終閲覧日 2022年1月28日)
11. 「韓国国会で宗教家への課税に合意、施行は2年先送り」
(ハンギョレ 2015年12月1日 <http://japan.hani.co.kr/arti/politics/22656.html> 最終
最終閲覧日 2022年1月28日)
12. 「종교인 소득세 시행 뒤…목회자 86% “과세제도 찬성”
(宗教家所得税施行後…牧師 86% “課税制度賛成”)」
(ハンギョレ 2021年8月23日 <https://n.news.naver.com/article/028/0002557687>
最終閲覧日 2022年1月28日)
13. 「‘종교인 과세’ 4년차…여전히 어려운 소득신고(‘宗教家課税’ 4年目…未だ難しい所得申告)」
(Dairy GOOD NEWS 2021年9月1日
<https://www.goodnews1.com/news/articleView.html?idxno=117696> 最終閲覧日 2022年1月28日)